

名 称	美幌町体験活動ボランティア活動支援センター
所 在 地	〒092-0027 北海道網走郡美幌町字稲美137-3 美幌町マナビティーセンター内
連 絡 先	TEL : 0152-72-2300 FAX : 0152-73-4420

地域の現況・特色

活動対象地域の人口 北海道網走郡美幌町 22,832人（平成19年1月末現在）

美幌町は、網走管内の拠点都市である北見市と網走市の間地点にあり、町内に4本の国道が通っている他、特急列車の停車駅、さらには女満別空港まで車で10分程度で到着できるなど、世界遺産登録となった知床をはじめ、オホーツク観光における交通の要衝となっている。基幹産業は農業であり、甜菜や麦、芋類を中心として約500戸の農家が美幌町の基幹産業を支えている。

美幌町では、保健福祉総合センター「しゃきっとプラザ」を中心とした町民の健康づくりや、社会教育4施設等により生涯学習を推進している。特に青少年健全育成の面では、「地域の子どもは地域で育てる」という視点に立って、各小学校区におけるコミュニティスクールや、町民の1割が加入している「子ども見守り隊」など、学校と家庭、地域が一体となって次代を担う子どもたちを育てる取組を積極的に行っている。

コーディネートした事例の名称、概要、特色

名称 「キッズカルチャークラブ」

○事業の概要

美幌町では社会教育活動の拠点施設として、美幌町マナビティーセンターが運営されている。現在、マナビティーセンターでは手工芸や絵画、ダンスや陶芸など54のサークルが活動をしているが、潤いのある豊かな地域づくりを目指すために、活動を自分たちの趣味の範囲にとどめるのではなく、自分たちの活動を広く町民（社会）に還元し、「生きがい」から「やりがい」を感じながら活動することを奨励している。美幌町体験活動ボランティア活動支援センターはマナビティーセンター内に設置している。

こうした中で、マナビティーセンターを利用しているサークルの社会参加活動の一環として、土曜日の休日に、手工芸関係のサークルを中心として、子どもを対象とした教室を開催・主管し、子どもの創作ならびに文化活動の体験機会と健全な遊びの空間を提供するとともに、施設利用者の参画による施設運営の充実を図ることを目的として、平

成14年度より「キッズカルチャークラブ」を開催している。

○対象 小学生

内容により参加できる学年に制限があるが、1年生～6年生の参加を基本としている。



陶芸クラブの様子

事業の内容（平成17年度）

- 茶道クラブ（月1回、美幌茶華道連盟指導）
- 将棋クラブ（年2回開催、個人指導）
- 木工作クラブ（年1回開催、木工作サークル指導）
- 七宝焼クラブ（年3回開催、七宝焼サークル指導）
- ステンドグラスクラブ（年1回開催、ステンドグラスサークル指導）
- 陶芸クラブ（年1回開催、陶芸サークル指導）

教育委員会・主管するサークル・美幌町自治会青少年部連合会の共催事業として開催しており、主管サークルには、ボランティアとして指導に当たっていただいている。子どもたちへの周知は、毎月初旬に発行している情報紙に掲載し、学校の協力をいただいて全児童・全教職員に配布している。参加費は保険料・材料代等実費で500円を上限として徴収しており、開催場所はマナビティーセンターの他、町の公共施設でも開催する等、全町の子どもたちが参加しやすい条件づくりを行っている。

コーディネートの実際



七宝焼クラブの様子

○取組に至る経過

マナビティーセンターがオープンするまで、美幌町ではコミュニティセンターが社会教育・生涯学習の拠点施設として利用されてきていたが、コミュニティセンターを拠点に活動する団体・サークルが増加し、工芸室1室に対し複数のサークルが利用するなど飽和状態となっていた。マナビティーセンターに移転したことにより、陶芸や木工作、手工芸などの専用室が完備され、活動のスペースが充実したことで、各サークルが余裕を持って様々な活動に取り組むことができるようになった。キッズカルチャークラブは、こうしたサークル活動が充実した施設の中で運営されることにより、前述したように、活動を地域に還元する取組の一環として、完全学校週5日制が開始された平成14年度から実施しているが、休日が増えたことにより、子どもたちが地域で遊ぶ機会が増えたこと、そして、サークル活動の地域への還元という目的が一致したことから始まった事業である。



将棋クラブの様子

○開催に至るまで

各サークルからは年に1回開催するマナビティセンター利用サークル連絡会議の際に必要な資料（開催要項、計画書）を渡し、クラブを実施したいという意向のあるサークルから計画書を提出していただき、実施している。あくまでも強制ではなく、各サークルの活動としてとらえていただき、自分たちの活動を子どもたちに還元するという視点で実施している。

○成果

マナビティセンターを利用するサークルが子どもたちにその技術を提供する取組により、「地域の子どもは地域で育てる」という考え方やサークルの活動を社会に還元する（「やりがい」につながる）必要性の理解が徐々に深まっている。

○課題として

団体やサークルだけではなく、個人で知識や技術を持った方による講座の開設等の内容充実や、より多くの子どもたちに参加してもらえるよう、学校教諭との連携を密にし、事業への参加奨励をさらに進めることが必要となっている。

執筆者職・氏名：美幌町教育委員会 社会教育グループ社会教育担当
社会教育主事 野村 太一